

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 善本亮

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医薬理学総論、各論、実習：薬物と生体の相互作用に関する概念から、各薬物の作用機序、薬物治療の基本的な考え方などについての講義を行う。実習では生きた動物や臓器などを用い、学生自らが手を動かし、得られた結果に対して共に議論・考察することで、薬理実験の手技を経験するとともに、講義で学んだ知識の定着を図る。

総合獣医学（薬理）：ポイントを押さえながら全体を再整理することで、国家試験対策の手助けとなるような講義を行う。

研究室所属生：研究テーマの背景の学習、研究テーマの選定、仮説設定、実験的検証、考察を繰り返すことを通じ、考える力、論理的思考力の習得に導くとともに、着実に実験を進めるために必要な自己管理能力を醸成する。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医薬理学総論	獣医学科	必修	3	151
獣医薬理学各論	獣医学科	必修	3	152
獣医薬理学実習	獣医学科	必修	3	145
総合獣医学	獣医学科	必修	6	175
獣医学特論I	獣医学科	必修	5	4
獣医学特論II	獣医学科	必修	6	1
卒業論文	獣医学科	必修	6	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医学科の卒業生は、動物の生命科学、疾病、治療を学んだ学生と見なされる。薬理学は獣医、医薬、薬学でしか学ぶことができない学問であり、社会からの期待も大きい。薬理学を通じて得た知識や考え方は臨床での薬物治療や医薬品開発のみならず、自身が処方される医薬品の効果や安全性、非合法薬物やオーバードーズのリスクなど、身近な薬物を正しく理解することにも役立つ。また、卒業研究は答えが用意されていない課題に対し、初めて科学的にアプローチする機会でもある。近年は健康や医療に関する疑似科学的な言説が広く浸透しているが、科学的素養・思考力を育むことで、振り回されることはなく、ましてや獣医師として治療に利用することはあり得ない。薬理学や卒業研究を通じ、科学的思考を身につけた学生の育成を目指している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

講義：医薬品は商品であり、その開発の背景にはニーズがある。一方、医薬品の開発には科学技術の発展が不可避であり、効果には科学的裏付けもある。単なる薬物名、作用機序の説明だけではなく、医薬品開発の経緯、教科書には出ていない最新のヒト医薬品などを伝えることで、薬物や生命科学全般に生涯興味を抱けることができるような講義を行う。一方、国家試験を考えると暗記を避けて通ることはできない。講義毎にまとめとして薬物・作用機序・有害作用などを整理するとともに、前期・後期とも最終講義では総まとめを行い、知識が定着しやすい環境を提供している。

研究：卒業研究を通じ、調査・仮説・検証・考察のサイクルを繰り返し、課題発見能力や科学的思考力を身につけることを目指す。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義終了後、当日の講義内容に沿ったテストおよび自由質問欄を學理に1週間提示し、採点、質問への解答を実施している。提出は任意としているが、概ね100%の提出率となっている。解説欄には正答だけでなく関連する薬物や作用機序をまとめて解説し、回答後の頭の再整理や、試験前に見返して利用しやすいような形式にしている。また、繰返し解答をできる形式のテストを追加提示し、自発的な復習や試験前の対策に利用させている。

(2) ICTの教育活用

有

講義資料のスライドを授業1週間前、講義動画はGoogle Meetsで録画し、授業終了1～2日以内にAzaMoodleに提示している。また小テストも講義毎にAzaMoodleで実施している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

学生が薬物に興味を持てるよう、さまざまな工夫を行っている。具体的には、薬物のヒトへの応用例を適宜紹介することで、自身が日常的に使用する薬への理解と関心を高めるとともに、近年の薬物に関連した社会的事例（紅こうじ事件、いわゆるゾンビドラッグとして問題となったエトミデートなど）や、国外で承認された新しい動物用医薬品の情報を取り上げることで、学習意欲の向上を図っている。

(2) 学生の理解度の把握

A

Azamoodle上では各回の講義ごとに質問コーナーを設け、学生に疑問点や不明点を記入させ、寄せられた質問には毎回すべて回答している。共通して理解が不十分と考えられる内容については次回の講義内でも補足説明を行うことで、学生の理解度の把握と学習支援に活用している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

Azamoodle上に、講義内容に関連した解説付きの小テストを何度でも受験できる形で設け、学生が自学自習によって復習を重ねながら理解度を高められるよう工夫している。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

実習の際には積極的に学生に声をかけることで、学生が教員に質問しやすい雰囲気づくりを行っている。また、試験前などに個別に質問を受ける機会も多く、その際には丁寧に対応している。

(5) 双方向授業への工夫

C

Azamoodleでの質問コーナー以外には、150人近くの聴講生がいる講義で双方向性を出すことは難しいと感じている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

各講義における小テストおよび定期試験では、国家試験を意識した形式・内容の問題を出題している。さらに、総合獣医学の授業では、単なる復習にとどまらず、各単元の重要度や出題頻度、重要なポイント、整理すべき事項、混同しやすい内容をまとめた資料を作成し、効率的に学習できるよう支援している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

改善希望点などはアンケート回答になく、概ね良い評価を学生からもらうことができたが、引き続き、講義資料の充実を図るとともに、学生の集中力の維持・回復を目的に、自身のプライベートの話や、飼っているイヌの小話を適宜挟む工夫を行った。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

眠そうな学生の様子が改善するなど、授業への集中度の向上が明らかに認められた。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

適宜継続する

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

これまでと同様、講義毎の小テストの実施と質問への返答を継続する。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

小テストの問題数を増やしてほしいとの要望があったため、問題数を増やせる単元については、問題数を増やした。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FD研修に全て参加した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

短期的には、国家試験を意識した講義内容や小テストの充実を図るとともに、LMSを活用した質問対応や復習教材の整備を進め、学生の理解度向上と自学自習の促進を目指す。長期的には、臨床薬理的な内容を充実化させたいと考えており、自身も臨床の勉強をしていく。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

講義資料、AzaMoodle内容